

あこのころのレコードを聴こう!

アナログ盤の音に 酔える店

アナログ盤の良さは百も承知だ。しかしすでに自宅にプレーヤーはなく、ゆっくり音楽に耳を傾ける空間もない——。そんなかつてのオーディオファンは、ぜひ一度、^{レコ}基の“レコードバー”を訪ねてほしい。あこのころの熱い思いも、きっと、アナログレコードはよみがえらせてくれるはずだ。

最近 お酒とともにアナログレコード盤で音楽を楽しんでもらおうという、いわゆるレコードバーが増えてきた。東京・新宿三丁目駅近くの「BAR rpm」もそのひとつだ。

2014(平成26)年にオープンしたここには、70年代から80年代のロックを中心にワウル、ブルース、ジャズ、フュージョンなどさまざまなジャンルのレコード約2000枚があり、その日のお客の好みによっていろいろな曲がかかる。

マスターの小泉達矢さんは今年41歳。音楽に興味をもったころにはすでにレコードからCDに移行していた。

「もともとレコードってジャケットのデザインにひかれるところがあって、格好いなあと思うってなんです。それに音質的にもCDに比べて間違いなくレコードのほうが興行きがあるし、CDでは再現できない音も確実に表現してくれます。それが分かっていたらレコードしか聞かなくなりました」

この店で使っているシステムは、プレーヤーがリンのLP12、アンプがアキコフェーズ、たまたま取付時は修理中で、代替の管球式アンプが使われていたが、それも絶品！で、JBLのスピーカー240T1を鳴らしている。

「もちろんシステムに対するこだわりもありますよ。いろいろと試してみても現在のセッティングに落ち着きました。リンはとて透明感があって、JBLとの相性が抜群です」

集まってくるお客は若い、うにレコードを再認識してもらったことも大事ですが、これまでレコードを聞いたことがない若い人たちにレコードの音がいかに素晴らしいかを分かってもらいたいですね。一度聞いていただければ、CDとの違いは明らかに分かりますから」

最後に、自宅でレコードを楽しむためにはどうしたらいいのか、小泉さんにアドバイスしてもらった。

「オーディオは水道の蛇口のようなものだと思います。どろろが閉まっても水が出てこないですからね。スピーカーもアンプもプレーヤーもいれものを買えば間違いありませんが、上はキリがありません。それぞれ10万円程度、総額50万円くらいをかけたシステムならば、満足いく音と出合えると思います」

Bar rpm
新宿区新宿3-6-3 ISビル2F
☎03-3226-3388
18時~3時(日祝~2時)月休
席数: カウンター7席、テーブル2卓(4~5席)
ウェディング席(2席)

